

4月19日(土)

能 清水

今流行りの茶の湯の会を開くことになった主は、太郎冠者に野中の清水へ水を汲みに行き、大切にしまっていた特別な桶を預ける。太郎冠者は、来客のたぐいに行かされては困るので、清水に鬼が出たと嘘をついて桶を置いて戻る。ところが桶を惜しんだ主が清水へ行ってしまい、太郎冠者は先回りして鬼になりすまして脅す。――

茂山忠三郎(五世)の太郎冠者、善竹忠重の主、それぞれの持ち味の対比も面白い舞台になるだろう。

能 野守 黒頭 天地之声

大和国春日の里。旅の山伏は、飛火野の野守の翁から、「野守の鏡」にまつわる故事を聞く。翁は、この野にある由緒ありげな溜り水のことを「野守の鏡」と言うことや「真の野守の鏡」とは、昔この野を守護していた鬼神の持っていた鏡だと教えると、塚の中に姿を消した。山伏が祈ると、塚の中から鬼神が現れて、手にした大鏡で天上界から地獄の底まで余すことなく映し出し、大地を踏み破って奈落の底へと帰って行く。――

東京から来演する梅若紀彰(二代)が、繊細かつ大胆、力強く躍動的に演ずる『野守』をお見逃しなく。

6月21日(土)

能 雲林院 古演出

『伊勢物語』を愛読する芦屋の公光は、夢に導かれて都紫野の雲林院を訪れる。折から満開の桜の枝を手折ると、現れた老人にとがめられる。公光が夢の話を持ち明けると、老人は『伊勢物語』の秘伝を授けようと告げ、自らを物語の主人公在原業平であるとほめかして消えた。その夜、公光が月下の桜の木蔭に見たものは、業平と二条の後の逃避行に隠された秘密だった。――

後場が現行演出とは全く異なる世阿弥自筆本。赤松禎友と寺澤幸祐の顔合せで、妖しくも美しい『伊勢物語』の秘伝の世界を舞台に現出させてくれるだろう。

5月17日(土)

能 鵜飼 古演出

甲斐国石和の鵜使は、禁漁を破って川に沈められ地獄に堕ちた。旅の僧の前に現れた鵜使の亡者は、罪障懺悔のために漁のさまを見せ、生前、僧を一夜接待した功德と法華經の力によって極楽へ導かれる。――

洗練された美しさの幽玄の能より前の時代の古い趣を残す鬼の能。前シテの鵜使の尉と後シテの地獄の鬼は別人格だが、現行演出では、同じ演者が演ずるために、物語上は舞台にいるはずの鵜使の尉が後場にはいない。今回は、赤松禎友の演ずる前シテが後場に残り、上野朝義が演ずる後シテが登場するという古い形で上演する。

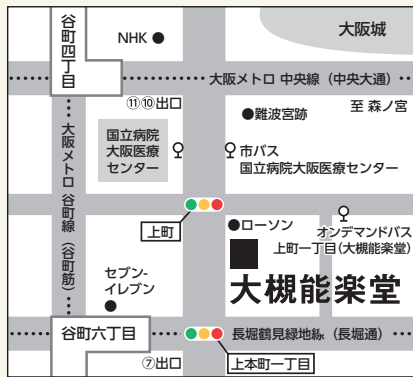
能 通小町 雨夜之伝

八瀬の山里で夏の修行をしている僧の庵に、毎日、木の実や薪を供えに来る不思議な女がいた。名を問うと、市原野に棲む者と答えて消えた。僧は女の正体を小野小町と察して、弔うために市原野へ出向く。すると、小町の霊が現れて弔いを感謝するが、背後から四位少将の霊が現れて小町の成仏を妨げる。少将は想いが成就しなかった恨みを述べるが、罪障懺悔のために百夜通いのさまを再現して見せ、二人は共に成仏する。――

武富康之と大槻裕一の顔合せで、一途な恋の悲哀と妄執の結末をいかに演ずるか、乞うご期待。

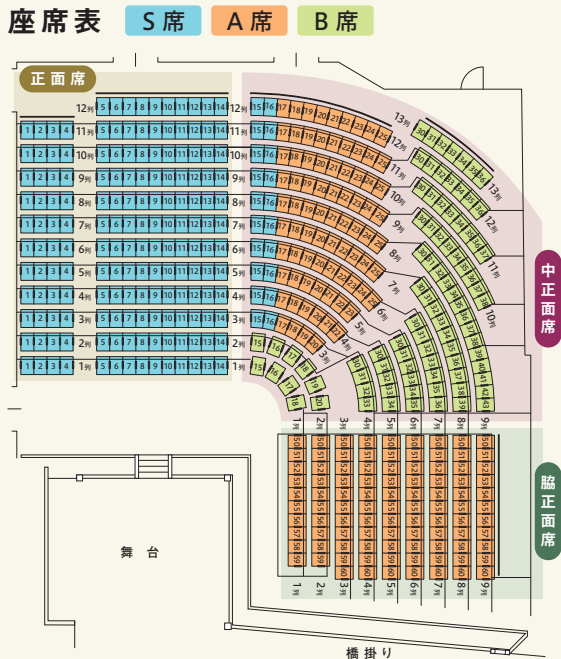
文・石淵文恵

会場 大槻能楽堂 大阪市中央区上町A番7号



- 大阪メトロ谷町線・中央線「谷町四丁目」駅下車、⑩号出口を出て南へ約300m。(⑪号出口にエレベーター有り)
- 谷町線・長堀鶴見緑地線「谷町六丁目」駅下車、⑦号出口を出て北へ約350m。(⑦号出口にエレベーター有り)
- 市バス「国立病院大阪医療センター」下車南へすぐ。
※大阪駅から62号系統「住吉車庫前」行乗車。
※「あべの橋」(天王寺)から62号系統「大阪駅前」行乗車。
- オンデマンドバス運行中
乗降場所:上町一丁目(大槻能楽堂)

※駐車場・駐輪場はございません。
※やむを得ぬ事情により、曲目・出演者・日程・終演予定時刻等の変更が生じる場合がございます。
あらかじめご了承ください。お願い申し上げます。
※本公演における写真撮影及び録音・録画は固くお断りいたします。
※上演中は時計等のアラームや携帯電話の電源をお切りください。
※未就学児のご入場はご遠慮ください。



能 野守 梅若 紀彰
黒頭 天地之声

狂言 清水 茂山 忠三郎

お話 「鬼のルーツ」 松岡心平

4/19 SAT



能に見る

令和七年度大槻能楽堂自主公演能

能の魅力を探るシリーズ

能 通小町 武富 康之
雨夜之伝

能 鵜飼 赤松 禎友
古演出
上野 朝義

お話 「世阿弥が論理つけた
力動風と碎動風の鬼」
松岡心平

5/17 SAT



能 雲林院 赤松 禎友
古演出

お話 「執念の鬼と化す思い」 松岡心平

6/21 SAT



大槻能楽堂

主催：公益財団法人大槻能楽堂

助成：文化庁文化芸術振興費補助金
(舞台芸術等総合支援事業(公演創造活動))
| 独立行政法人日本芸術文化振興会

〒540-0005 大阪市中央区上町A-7
TEL.06-6761-8055
【公式サイト】noh-kyogen.com

公演パンフレット「おもて」季刊発行
詞章・あらすじ等を掲載 1冊:1000円(定価)



令和七年度 大槻能楽堂 自主公演 能の魅力を探るシリーズ

能に見る鬼の世界

人に災いをもたらす恐ろしいもの―鬼

能・狂言には様々の鬼が登場します。
冥途の鬼から、心の鬼へと人々の心を映し出した
鬼の姿を御覧頂きます。

■入場料金 友の会：割引特典あり

席 種	前 売	当 日
S 席	6,500 円	7,500 円
A 席	6,000 円	7,000 円
B 席	5,500 円	6,500 円
学生 (B席)	3,300 円	4,300 円
U-25 25歳以下 (B席)	席数限定 1,100 円	B席 2,100 円 立ち見 800 円

当日券は13:00より販売

■チケット発売日

公 演	友の会	一般
4/19 野 守	2/10	2/19
5/17 鶺鴒・通小町	3/7	3/14
6/21 雲林院	4/11	4/18

9公演セット券 4/18まで発売中

能をはじめてみる方へ 事前レクチャー

※事前予約制（各公演前日16時までにお申し込みください）

日 時	各公演当日 12時40分～12時55分 (入場12時30分)
料 金	500円 (当日支払い)
応募方法	電話またはQRコードの予約フォームよりご応募ください

第734回

4月19日(土) 13:00開場
14:00開演

お話 「鬼のルーツ」 松岡 心平

能 狂言 清 水

シテ 太郎冠者 茂山忠三郎
アド 主 善竹 忠重
後見 山本 善之

能 野 守 黒頭 天地之声

前シテ 野守の翁 梅若 紀彰
後シテ 鬼神 福王 和幸
ワキ 山伏 喜多 雅人
ワキツレ 山伏 中村 宜成
アイ 春日の里人 善竹 忠亮

笛 齊藤 敦
小鼓 成田 奏
大鼓 河村真之介
太鼓 上田 慎也

後見 大槻 文藏
山崎 正道

地謡 上野 雄三
赤松 禎友
山本 博通
山本 正人
武富 康之
川口 晃平
大槻 裕一
上野 雄介

(終演予定時刻16時40分頃)

第735回

5月17日(土) 13:00開場
14:00開演

お話 「世阿弥が論理づけた力動風と碎動風の鬼」 松岡 心平

能 鶺鴒 飼 古演出

前シテ 鶺鴒の老人 赤松 禎友
後シテ 地獄の鬼 上野 朝義
ワキ 旅僧 福王 和幸
ワキツレ 従僧 喜多 雅人
アイ 石和川辺の者 善竹 隆司

笛 野口 亮
小鼓 林 吉兵衛
大鼓 谷口 正壽
太鼓 中田 一葉

後見 上田 拓司
生一 知哉

地謡 上野 雄三
山本 博通
浦田 保親
寺澤 幸祐
長山 耕三
林本 大
上野 朝彦
稲本 幹汰

能 通小町 雨夜之伝

シテ 深草少将の怨霊 武富 康之
前ツレ 里女 大槻 裕一
後ツレ 小野小町の霊 福王 和幸
ワキ 僧 齊藤 敦
後見 久田舜一郎
寺澤 幸祐

地謡 大槻 文藏
山本 博通
浦田 保親
山本 正人
齊藤 信輔
水田 雄晤
山田 薫
稲本 幹汰

(終演予定時刻17時15分頃)

第736回

6月21日(土) 13:00開場
14:00開演

お話 「執念の鬼と化す思い」 松岡 心平

能 雲林院 古演出

前シテ 老人 赤松 禎友
後シテ 藤原基経の怨霊 寺澤 幸祐
ツレ 二条の後の霊 福王 知登
ワキ 芦屋公光 善竹 隆平
アイ 北山辺りの者 善竹 隆平

笛 杉 信太朗
小鼓 吉阪 一郎
大鼓 山本 寿弥
太鼓 中田 弘美

後見 大槻 文藏
武富 康之
大槻 裕一

地謡 上田 拓司
上野 雄三
山本 博通
浦田 保親
齊藤 信輔
山田 薫
上野 雄介
上田 顕崇

(終演予定時刻16時25分頃)

一步踏み込んだ解説講座はいかがでしょうか？
月イチ能楽講座in大槻能楽堂

講師 大槻裕一・成田奏

講座内容 4/14(月)19時～ 演目「野守」
5/12(月)19時～ 演目「通小町」
6/11(水)19時～ 演目「雲林院」

料金 2,000円

申込 右記QRコードを読み取り、
申込フォームをご送信ください。

令和7年度大槻能楽堂自主公演 能

音声による上演前の演目解説 (日英)

能一番 100円

能 (狂言も含む) 二番以上 200円

公演日の演目について気軽に聞ける、音声による上演前の解説 (日英)をご用意しました。開演前、休憩中にぜひご利用ください。

※上演中はご利用いただけません。